今後の学校の在り方に関する方針説明会で出されたご意見等について

目　次

1．方針全般に関すること	・・・1
2．通学支援に関すること	・・・3
3．部活動に関すること	・・・4
4．地域・伝統・跡地活用に関すること	・・・5
5．学校体制・学校区域に関すること	・・・7
6．特別支援・不登校に関すこと	・・・9
7．学校施設に関すること	・・・10
8．その他	・・・11



小林市教育委員会

１．方針全般に関すること

①	質問	この方針はどのように決まったのか。
	回答	令和7年2月に本市の学校の在り方に関する提言書が出され、令和7年7月から12月にかけて提言書をもとに、子どもたちにとってどんな学校が望ましいのかを考えていただくために保護者や地域の皆様、児童生徒を対象に意見交換を行った。教育委員会としては、提言書や意見交換の内容、さらには地理的な条件や地域性を踏まえ、この方針とした。

②	質問	この説明会は、現状の報告なのかそれとも市民の意見を聞く機会なのか。
	回答	方針の内容についての説明会である。方針へのご理解をいただき、色々なご意見を踏まえて再編計画を策定していきたいと考えている。

③	質問	学校の再編にあたって小林中に集められたのはなぜか。三松中も今後減っていくと思うが、将来的には統合するのか。
	回答	クラス替えができる程度の規模にするためには、地理的な要件を踏まえて小林中に集めることが適当であると考えている。三松中については、しばらくは生徒数は維持されるため現状維持という判断をした。将来的には状況が変わってくると思うので定期的にこのような形で意見交換をしていきたい。

④	質問	須木中については今後かなり生徒数が少なくなる状況でなぜ統合しないのか。
	回答	須木中については、学校までの通学距離が長くスクールバスを使っても30分以上かかるということで、子どもたちの心身の負担を考慮したことと、旧須木村という地域性を踏まえて現状維持とした。ただし、今後も生徒数は減少し学校を維持していくことが困難になることが想定されるので、引き続き保護者や地域の皆様との意見交換を行い学校の在り方について考えていきたい。

⑤	質問	東方中から小林中に行くことは、いきなり大規模過ぎるのではないか。
	回答	学校規模については、仮に東方中と永久津中と須木中が一緒になったとしても、数年後には再度、統合の協議をしていかなければならなくなる。統合により、一時的に小林中の生徒数が増えることになるが、そこから生徒数は減少していくことになる。

⑥	質問	なぜクラス替えができる規模が必要なのか。
	回答	提言書の中でもあったが、中学校は多様な考えに触れることや社会性を身につけていくために、ある程度の規模が必要であると考えている。

⑦	質問	小中一貫校ではなく、なぜ中学校の統合になったのか。
	回答	小規模校の小学校と中学校が一貫校になったとしても、学年の人数が増えることはないので、適正規模にすることはできない。学級数も変わらず教員の配置数も変わらないため、小規模化の課題解決にはならないと考える。

⑧	質問	令和13年4月の統合時期に中学2・3年生はどうなるのか。
	回答	中学2・3年生も同じタイミングで統合する中学校に通うことになる。

⑨	質問	令和13年4月に全学年が統合することになるが、新1年生だけが統合する方法はないのか。
	回答	学校を閉じる時に3年生だけになってしまうことを考えて全学年とした。

	質問	学習指導要領の改訂があるからこの時期になったとあるが、改訂が無ければこの時期にならなかったのか。

⑩	回答	いくつかの要件が重なってこの統合時期となっている。学習指導要領の改訂がなかったら検討しなかったということではない。学習指導要領の中で一番重要になってくるのが「こすもす科」である。令和13年度までに新しい学習指導要領に対応するための改訂作業に合わせて、単元や内容等の検討を行っていくこととしている。

⑪	質問	再編の時期は、令和13年4月に一斉に行うのか。
	回答	統合の時期については、令和13年4月と考えているが、児童生徒の減少率が校区によって異なることや、昨年度の意見交換会の中で統合を早くしてほしいという声もあった。統合の時期については、今後、協議をしながら検討を進めていきたい。

⑫	質問	紙屋中に関しては統合時期を前倒しできるのか。統合が決まった場合は、統合前に野尻中に行くことも可能か。
	回答	野尻中については教室の数が現在の校舎で足りているため、前倒しでの統合は可能であると考える。現在、校区は決まっているので、統合までは指定された校区に通うことになる。ただし、校区境などの一定の基準を満たせば学校を選択することが可能である。

⑬	質問	統合を前倒しする場合は、誰が判断するのか。
	回答	保護者や地域の皆様から統合を早めてほしいという総意があれば検討していきたい。

⑭	質問	来年3月に計画を策定するとのことだが、反対をすれば止められるものなのか。
	回答	方針については、教育委員会として大きな方向性を示したものである。統合の時期については、令和13年4月と考えているが、保護者や地域の皆様の総意があれば検討していきたい。

⑮	質問	現在の小学４年生が中学３年生の時に小林中が統合になるが、仮に須木中も統合の話が出てくれば統合はあるのか。
	回答	今後、保護者や地域の皆様から統合が望ましいという声があれば協議を進めていきたい。再編計画を策定するまでにご意見をいただきたい。

⑯	質問	三松中も今後は子どもは減っていく思うが、その場合はどのようになっていくのか。
	回答	三松中においては、今後も一定程度の規模を維持することができる見込みである。将来的には、どこの学校も生徒数が少なくなっていくことが予想されるので、定期的に保護者や地域の皆様との意見交換を続けていきたいと考えている。

⑰	質問	令和19年度以降も生徒数が減っていった時にはどのような形になるのか。
	回答	今後も子どもの数は減っていくことが予測され、将来的に学校を維持することが困難な規模になることが考えられるので、今後も定期的に保護者や地域の皆様との意見交換会を実施していきたい。

⑱	質問	統合した後も課題はでてくると思う。このような意見交換は定期的に続けていくのか。
	回答	教育の課題については、保護者や地域の皆様と意見交換を行っていく必要があるため、今後も続けていく必要があると考えている。

⑲	意見	統合時に中学生になる現在の小学4年生以下の保護者の意見をもっと聞いてもらいたい。 実際に統合に直面する保護者や子ども達に意見を聞いてもらいたい。

⑳	意見	昨年度の意見交換会でのアンケート結果があったが、意見交換会に参加できずにアンケートに答えられない人たちがいたと思う。今回の説明会でも参加者が少ないので、参加できなかった人たちの声を聞いてもらいたい。

２．通学支援に関すること

①	質問	スクールバスは保護者負担はないのか。
	回答	スクールバスの保護者負担は考えていない。

②	質問	スクールバスの運転手の採用については、きちんとした人を採用してもらいたい。それと教員を採用する場合には、きちんと調べて採用してもらいたい。
	回答	子どもたちが安心安全な通学ができるように配置をしていきたい。教員の採用については、県と連携しながら取り組んでいく。本年12月に「こども性暴力防止法」が施行され、特定性犯罪記録の確認等が行われる。

③	質問	スクールバスを運用するにあたって財源はあるのか。
	回答	国の補助金としては、スクールバス購入費以外にも、スクールバスの遠距離通学補助がある。小林市で活用できるかも含めて検討していきたい。

④	質問	スクールバスは生徒数が減少したとしても運行を続けるのか。
	回答	スクールバスは生徒がいる限り運行は行う。

⑤	質問	スクールバスは朝は1台となっているが、どのような運行になるのか。 スクールバスに乗りきらない場合は、自転車か保護者の送迎となるのか。
	回答	スクールバスは朝は1台ではなく、1便で運行する。コースについては、統合が決まった際に部会を設けて詳細を検討していきたい。通学時間は30分以内が望ましいと考えている。住んでいる場所によっては、自転車や徒歩による通学も考えられる。保護者の送迎は考えていない。

⑥	質問	スクールバスは野尻地区に単独で運行するのか。
	回答	紙屋地区から野尻中までの運行となる。

⑦	質問	土日及び長期休業中に部活動がある場合は、スクールバスの送迎はできるのか。
	回答	休日、長期休業中についても部活動の時間を調整してスクールバスで対応することを考えている。

⑧	質問	スクールバスの運用で、帰りの部活動後の便については、大会前などは柔軟な運用はできないのか。
	回答	学校で部活動が終わる時間は決められているので、今後スクールバスの運用を協議をしていく中で、各学校の実態に合わせた運用をしていきたいと考えている。

３．部活動に関すること

①	質問	部活動を地域展開した場合に、経済的な理由でできなくなる場合の対策はあるのか。
	回答	本市は県内でも先進的に地域クラブ活動に取り組んでおり、保護者負担については、現在の部活動と同等の負担になるように検討を進めていきたい。

②	質問	子どもが吹奏楽部に所属している。統合まではどのようにしていくのか。
	回答	吹奏楽部だけでなく、他の部活動も人数が減っているのが現状であり、統合前から一緒にできないかも含めて検討していきたい。現在、小林市で取り組んでいる地域クラブ活動と拠点校部活動を推進して、子どもたちがやりたい部活動ができる環境を整えることが大事だと考えている。

③	質問	小林市の部活動については、地域クラブ活動に移行していくのか。
	回答	小林市においては、地域クラブ活動と拠点校部活動を実施している。今後については、小林市としてどの形が一番いいのかを模索しながら進めていきたい。地域クラブ活動は、クラブチームではなく、「小林市中学校部活動の方針」を準拠した活動であり、教師の負担軽減と生徒にとって望ましい指導の実現を図るために、運営や指導を地域にお願いする体制である。

④	質問	今後の児童生徒数の推移をみると、近い将来にまた考えないといけない時期がくるので、早い段階で中長期的なビジョンを考えておくべきだと思う。小林市では地域クラブ活動と拠点校部活動が進んでいるが、部活動は人間教育をする上でも大事だと考えているので、今後の部活動の在り方についても一緒に考えていってほしい。
	回答	学校の在り方と部活動の在り方について両輪で考えていかなければいけない。今後、部活動顧問との協議を予定しているので、部活動の在り方について先生や保護者、子どもたちの声を聞きながら一緒に考えていきたい。

４．地域・伝統・跡地活用に関すること

①	質問	中学校が西小林地区からなくなることによって魅力がなくなり、これからますます西小林地区の子どもの数が減ることが想定されるが、市として西小林地区をどう振興していきたいというビジョンはあるのか。これから考えていくのか。
	回答	現在、まちづくり協議会で地域の方々の意見を聞きながらどういった地域にしていきたいかを考えている。引き続き、検討を進めながらよりよい方向になるようにしていく。

②	質問	小林市として、西小林地区をどうしたいというような構想は持ってないのか。
	回答	市長がまちづくりの考えとして3つの大きな柱を立て、いま動き出したところである。教育委員会も、小林の魅力をいかに高めていくかということは考えながら進めていかなければいけないと考えている。

③	意見	西小林地区に住むことでメリットがないと誰もここに住まなくなると思う。これから家を建てる時に、利便性の高いところに家を建てることになるので、そこを覆すようなメリットを行政として考えてほしい。

④	質問	紙屋校区では22年間続いた合同運動会を今後どのようにしていくのかとなった時に、まちづくりをしていく上で誰がリーダーシップをとってやっていくのか。
	回答	伝統芸能については、統合によって引き継げる範囲が広がると捉えていただき、地域の方々の協力をいただきながら継承をしていきたいと考えている。こすもす科の授業の中で、伝統芸能について学ぶ機会については、学習指導要領の改訂に合わせて、伝統芸能をどう残していくのかを生徒一人一人が考えていけるような学習にしていきたい。 地域の担い手不足は、市の課題だと認識している。大学生や地域の若者を中心とした会を作り、そこで意見を集約してまちづくりに活かしていきたいと考えている。その中で、新しいリーダーの育成・発掘に繋げていきたい。

⑤	質問	小中合同運動会の時に、中学生は地域に戻ってとあったが具体的にどのようなイメージを考えているのか。
	回答	こすもす科の授業の中で、中学生が紙屋小に来て運動会の準備やお手伝いができないかと考えているが、今後、どのような関わりができるかを検討しながら進めていきたい。例えば、野尻の小学校3校の運動会を同日に開催し、その日は野尻中は学校日にして、中学生はそれぞれ出身の小学校に戻って運動会に参加するという方法もあると考えている。

⑥	質問	統合後の小中合同運動会については、令和13年の５年後にいきなりできるものではないので、統合の２～３年前には実施ができるように、これから準備を進めていただきたい。
	回答	早い段階で準備を進めていかないといけないと認識している。そのためには、保護者や地域の方々の協力が不可欠になるので協力をお願いしたい。

⑦	質問	部活の自主練習場として、跡地の活用はできないのか。
	回答	跡地を部活動の練習として活用することについても、今後検討していきたい。

⑧	質問	学校跡地について、現段階で決まっていることがあれば教えてほしい。
	回答	今のところ具体的なことはまだ決まっていないが、統合が決まったら、地域と協議の上どのような活用がいいのかを検討していきたい。

⑨	質問	統合される学校を小学校に活用することもあると方針であるが、紙屋校区でも想定されるのか。耐震強度がない学校については取り壊しも考えているのか。
	回答	市内の小・中学校の中では、中学校の方が校舎が新しい校区もあるため、方針にこの文言を入れている。古い校舎で安全に使っていただくことができないということであれば利活用は難しいかもしれない。地域の方々と協議をしながら、どのような活用が有効かを検討していきたい。

５．学校体制・学校区域に関すること

①	質問	教員の人数はどのように配置されるのか。
	回答	教員数は学級数によって配置数が決まる。小規模校になると、中学校においては学級数が少ないため専門的な教員が配置できなくなる。統合した場合、学級数が増えるので専門的な教員を配置することが可能になる。

②	質問	学級の人数が多くなると、先生達の目が届きにくくなるのではないか。
	回答	人数が増えることで少ない人数より目が届きにくくなる可能性もあるが、学級数が増えれば先生の数が増えるので、担任だけでなく、多くの先生で子どもたちに対応する体制になる。

③	質問	専門教科の先生が配置されないといけないのか。
	回答	現在も、専門教科の教員が配置できていない状況はあるが、教員が教材研究をしながら指導していただいている。現在、学校の働き方改革が進みつつも、教員の業務は多い。先生方には、自分の専門教科に集中できるような環境を整えることが望ましいと考えている。

④	質問	中学校が35人学級とあるが、例えば1学級をさらに半分にして17人にして先生を増やすことはできないのか。
	回答	教員の配置数は、学級数によって決まるが、学級数は児童生徒数により決まる。現在、中学校については、中学1年が35人、中学2年～3年が40人で一人配置されることになる。17名で一人配置することはできない。

⑤	質問	統合前に、これまで教わっていた教員が統合時にもいてもらえるような人事配置をお願いしたい。
	回答	教育委員会としても県にお願いしていきたい。

⑥	質問	須木中の今後の児童生徒の推移をみると、10年後は３名になるということで、学校側の運営として大丈夫なのか。
	回答	今後も定期的に協議をしていくことが大事だと思う。３名になった時に協議を始めるのでは遅く、統合するまでには時間を要するため早めに動かなくてはいけない。０名になれば、休校か閉校するしかないが、子どもがいれば、学校を置くことが教育委員会としての役目である。

⑦	意見	中学校の講師を３年した経験がある。生徒数が増えることにより、専門性の確保ができるというのはすごく共感できた。自身も他教科を受け持つことがあり、そこに費やす時間が多く、その時間を生徒との時間に充てられればいいなと思っていたのである程度の人数を確保することは大事だと思う。

⑧	質問	現在の小学２年生が中学校に入学する時に統合となるが、小学３・４年生は、先々を見越して小林中に通わせてよいのか、それとも校区を守らなければいけないのか。
	回答	校区制があるので、統合するまでは現在の校区の学校に行くことになる。理由があれば校区外で認めることができる。住んでいる地区によっては、再編後に違う学校に通った方が距離が近くなるケースがあるので、柔軟な調整区域を検討していきたい。

⑨	質問	統合時の中学２・３年生は、人間関係を考えると、中学校の途中から統合するよりは、入学の段階から小林中に入った方がいいと思うができるのか。
	回答	お住まいの地域毎に校区を定めているので、統合まではその校区に応じた学校に行くことが基本となる。校区境にお住まいの場合は、校区外が認められる。統合前後は、学習面や体力面、精神面でのケアを十分に行っていきたい。統合前では、学校間での交流学習を増やしていき統合がスムーズにできるようにしたい。さらにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携を図りながらきめ細かな支援を行っていきたい。

⑩	質問	小林中に統合だが、三松中に近い場合は三松中に行くことは可能なのか。
	回答	小林中に統合したのは、地理的に中心に位置しているためである。お住まいの地域によっては、違う学校の方が近くなるケースもある。校区境に住んでいる場合は、校区外申請を利用すれば選択することが可能である。

⑪	質問	子どもが違う学校に行きたいと希望した場合は、校区外は認められるのか。
	回答	現在の校区制では、お住まいの校区に応じた学校に通ってもらうことが基本となる。ただし、子どもたちのより良い教育環境については考えていかなければいけないので、今後も協議が必要だと考えている。

⑫	質問	統合した時に、クラス編成はどのようになるのか。
	回答	子どもたちの学びの環境が変わるため、統合の前後に、子どもたちへの十分なケアが必要だと考えている。統合前から学校間での交流学習を行ったり、合同の行事を行ったりするなどして交流を深めることが大事だと考えている。生徒数が増えることにより、不安になる生徒に対しては、教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら支援を行っていきたい。

⑬	質問	統合により馴染めない生徒も出てくると思うが、統合後のクラス編成については何か配慮を考えているのか。
	回答	クラス編成についてはまだ具体的なことは決まっていないが、どのような形でクラス編成をしていくことが望ましいか検討が必要になってくる。統合前後は、学習面や体力面、精神面などで十分なケアが必要だと認識している。また、統合前に学校間で交流学習や合同での行事等を行うなどして、スムーズに統合できる準備を進めていきたい。

⑭	質問	小小連携については、現在も修学旅行などで交流をしているが、もっと一緒に学んだり、交流したりする場が必要だと思う。
	回答	修学旅行や宿泊学習など色々な行事において、他校と一緒にやる機会を増やしていくことは大事だと思っている。費用面や教育課程の調整などの課題をすり合わせながら検討していきたい。

６．特別支援・不登校に関すること

①	質問	学びの多様化学校は、不登校になった生徒しか利用できないと思うが、そうでない子も利用できないのか。
	回答	学びの多様化学校は、国の制度上、不登校としての認定がないと入学できない。再編後の学校については、「学校に行きたい」「学校に行かせたい」と思うような魅力的な学校をつくっていきたい。

②	質問	学びの多様化学校ができた後は、ふれあい学級は今後どのようになっていくのか。
	回答	学びの多様化学校は、学校に行きづらい子どもに対して授業時間を短くしたり柔軟な教育課程を組むことができる。不登校の児童生徒への多様な支援を行っていくために、ふれあい学級は引き続き設置することとしている。

③	質問	学びの多様化学校に教員を配置することになると思うが、その他の学校に教員を配置する方が優先ではないのか。
	回答	学校の学級数によって配置人数が決まるのでその他の学校の教員数が減るわけではない。

④	質問	学びの多様化学校はいつ、どこにつくる予定なのか。対象は中学校だけなのか。
	回答	開校時期などの具体的なことは決まっていない。現在、宮崎県内では中学校が３校開校している。文科省では小学校も高校も開校は可能としている。不登校の子どもたちに対する多様化学校の在り方については、校種も含めて、先進的な取組をしている自治体の研究を進めながら検討していきたい。

⑤	質問	再編により学校が大きくなれば、不登校になる生徒数が増えることが考えられる。できるだけ早く不登校支援の体制を作ってほしい。
	回答	不登校支援については、現在も校内教育支援センターや教育支援センターを設置して取り組んでいるが、今後もどのような支援ができるか検討を進めていきたい。

⑥	質問	こすもす支援学校は今後どのようになっていくのか。
	回答	支援学校ができて20年以上経っており、支援学校との交流は伝統となっている。支援学校の設置者である県教育委員会に対して、統合後も併設型の特徴を生かした取組の継続を相談している。

⑦	質問	小学校からこすもす支援学校と交流できることがすごく良いと思っている。統合により支援学校が小林中に併設された場合、他の学校は支援学校を知らないのでどのような対応を考えているのか。
	回答	例えば、こすもす科の学習の中で、支援学校との交流学習を行うことも考えられる。学習指導要領改訂にあわせて、学校の統合に応じたこすもす科の学習内容の充実を図っていきたい。

⑧	質問	統合によって、生徒達の心身のケアが大事になってくると思う。統合前の先生と一緒に統合後の学校に行くことは可能なのか。
	回答	子どもたちの学びの環境が変わるため、統合の前後に、子どもたちへの十分なケアが必要だと考えている。統合前から学校間での交流学習を行ったり、合同の行事を行ったりするなどして交流を深めることが大事だと考えている。生徒数が増えることにより、不安になる生徒に対しては、教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら支援を行っていきたい。教職員については、引き続き統合後の学校で勤務できるように県教育委員会に要望をしながら取り組んでいきたい。

7．学校施設に関すること

①	質問	小林中を改築することになっているが、現在の小林中では敷地が狭いのではないか。
	回答	現在のところ小林中の敷地内に建てることを考えている。統合する時の生徒数で校舎の規模も変わってくる。

②	質問	小林中は校舎を新たに建てるのか。
	回答	小林中校舎の改修を予定してる。校舎の状況を確認し、統合後の生徒数に応じた改修を行うことを考えている。

③	質問	小林中に一時的に生徒数が増え、その後、生徒数が減っていくとなると、使わない教室が出てくるのではないか。
	回答	令和13年4月に全ての学校が一律に統合ではなく、校区によって生徒数の今後の推移が異なるため、保護者や地域の皆様と協議しながら、統合時期を検討していきたい。校舎の改修は予算の関係で１回しかできないと考えている。

④	質問	三松小体育館改築については、耐力度調査をするのが令和９年度になるのか。
	回答	耐力度調査については、今年度実施する。その結果を踏まえ令和９年度からどのような形で改修していくかを検討していく。

⑤	質問	現在、地区体育館などが手入れがされていないように感じる。統合した場合も、部活動などで使うことが想定されるが、統合になった後の体育館等の施設は、きちんと管理がされていくのか。
	回答	子どもたちが使用する施設の安全性を確保するため、管理や整備等を行っていきたいと考えている。

⑥	質問	現在、三松小のプールが使われていないが、体育館を改修する時にプールのことは何か考えているのか。
	回答	小学校体育館を改修する際には、プールのことも含めて検討していきたいと考えている。

⑦	質問	学校施設の修繕について、市で支援はできないものなのか。
	回答	市内の小中学校で老朽化が進んでいる状況であり、子どもたちの安全な教育環境の確保という観点で緊急性の高い箇所から順次進めていきたいと考えている。

８．その他

①	質問	統合後の中学校の名称はどうなるのか。
	回答	学校名については、各校区で意見を聞きながら検討していきたい。

②	質問	制服については、統合時はどうなるのか。
	回答	統合時に中学2・3年生はそのまま使用することになるが、統合時までに制服のことも検討していき、可能であれば市内全校の制服を統一できないかも含めて協議していきたい。

③	質問	制服を市内統一とあったが、今の小学４年生が中学校に入学するまでに間に合うのか。
	回答	制服については、子ども達と一緒に考えていきたいと思っている。再編計画を決めたら早急に協議を進めていきたい。

④	質問	学校再編によって、PTAの体制はどのようになるのか。
	回答	PTAの体制については、統合が決まったら部会を設置して細かなことを決めていくことになる。各校区にあるPTAを解散し、再編後に新しい組織を立ち上げることになるのか、母体校のPTAを継続していくかなど、校区毎に決めていくことになる。